

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400293		
法人名	(有)エバーグリーン		
事業所名	グループホームくるみ		
所在地	福岡県鞍手郡鞍手町大字中山3599番地		
自己評価作成日	平成28年5月29日	評価結果確定日	平成28年6月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートურიずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「生まれ育った町で最期まで」を理念に掲げ入居者様と御家族様が満足の出来る生活を考えている。「くるみ」は、周りを田園に囲まれた中に建っているため、四季を通じて田植えから実りの秋の収穫までを見学している。家族には請求書送付時に生活の様子や、広報誌を送付している。隣接している医院の院長が理事を務めているため、毎朝診療前に訪れ入居者の体調管理を行っている。また開設当初と比べ入居者が重度化する中、常に異常を見逃さないように、プライバシーに気をつけながら、見守りができるように入り口にはレースのカーテンをつけている。看取りを希望する家族が増えているので、ケアからケアに変化している中、主治医・スタッフ・家族で話し合い看取りを行っている。今年は、100歳を迎える入居者が2名いるので、盛大にお祝いしようと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2年前、より地域に密着したサービスを提供するために理念を見直し、待たせない介護を目標に掲げて、理念の実践に努めている。介護度が重く意向の把握がしづらい入居者と日々の関わりを大切にしたり、喫煙が楽しみな入居者には、満喫できるように玄関入口の喫煙所に職員が同席している。ユニット毎の外出や外食の機会も多く、入居者の楽しみとなっているが、それらを満載したホーム便りは家族だけではなく、入居者にも好評である。昨年末から職員の異動が相次いだり、短時間の就労や子育て支援で就労しやすい環境を作り、時給を上げて職員の定着に努めている。適材適所の就労を目指し、共用空間や居室の飾り付けは創作が得意な職員が担当し、入居者の喜ぶ姿は職員のやりがいにも繋がっている。恒例の夕涼み会も開催予定で、運営推進会議で家族や地域の意見を運営に反映しながら、理念の具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームくるみ(唐ヶ崎)**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生まれ育った町で最期まで快適に暮らせる、愛あふれるくるみにしていきます。」と言う理念に基づき、最期までお世話をさせてもらっています。	2年前、より地域に密着したサービスを提供するために、理念を見直し、毎朝職員で唱和している。理念を実践するために、具体的な目標として待たせない介護を掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地産地消、米は施設の目の前にある田んぼで収穫された米を、買い物は町内の店を使用している。9月の夕涼み会には、乳児院の子供たちや、隣接のデイケアの利用者を招待している。また隣接している医院のデイケアの誕生会やお楽しみ会に参加。代わりに餅つき、収穫祭にお誘いしている。	今年も恒例の夕涼み会の開催を予定している。昨年は100名もの参加があり、地域の方々との交流の場として定着している。日頃は、運営推進会議のメンバーである近隣の民生委員宅に花見に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は町より委託され、介護教室を行っていたが、ここ数年は人員不足が続いていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2カ月に運営推進会議を開催している。防火訓練や、行事に参加していただき、その都度御意見をいただき、サービスの向上に努めている。	家族や地域区長、民生委員など、適切なメンバーの参加で、定期的に行われ、前回の防火訓練についての報告には、参加者から率直な意見があった。会議内容は家族に随時郵送し、職員には会議録を回覧している。	会議で地域同業者で作成した災害時における対応に関する協定書について報告し、地域や行政と連携されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1回/2ヶ月の運営推進会議に出席してもらっている。近年高齢者の行方不明があったので、地域包括センターが中心になり、見守りネットワークを整備し、事業所や、市町村と協力している。	運営推進会議で、今回の地震への協力体制について話を聞くなど、日頃から情報の提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの意義をスタッフ一人一人が理解している。委員会が中心になり、物理的な拘束だけでなく言葉や、薬による拘束に対しても認識している。玄関や、ユニットのドアの施錠はしていない。命にかかわることや、怪我に繋がるような時は家族の同意を得て拘束をお願いする事がある。	委員会で身体拘束の具体的内容について、日頃から話し合いを重ね、新人研修の良い機会としている。ベットからの転倒を防止するために、家族にベット柵の使用をお願いしている入居者もあり、同意書を作成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会、毎月虐待が行なわれていないか確認している。職員は1回/年ストレステストを受け、その後管理者と面接を行っている。身体だけでなく、大声、言葉、無視など虐待に当たることを理解して行動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年まで、成年後見制度を利用していた入居者が2名いたので、管理者は理解している。職員に対し研修や、勉強会は行なっていない。	管理者は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解している。今回は、利用料金等の支払いが滞る入居者があり、日常生活自立支援事業の活用を検討していたが、親族の健康状態が回復し、活用に至らなかった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書を交わした後変更がある時は、その都度説明し、書面で確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族代表を運営推進委員にお願いし、家族としての意見を述べてもらっている。また、面会時や、夕涼み会に来られた時に話を聞く機会がある。	訪問調査日、利用料の支払いや入居者の顔を見に来訪される家族が数名あり、管理者やケアマネジャーが状態を報告していた。毎月入居実績表や写真入りお便りを家族に送付し、家族の意見等の表出を促している。お便りは好評である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ストレステスト後や年に数回面接を行っている。不定期にリーダー会議、管理者会議を行い、意見を吸い上げ、1回/月の職員全員参加のミーティングで説明している。	定期的にミーティングを開催し、率直な意見交換に努めている。要望のあったお風呂のマットなど消耗品はすぐに購入された。職員のリーダー制についての意見を反映し、交代制にして今後のあり方を考察中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員が多くなってきているが、働く時間、休み時間、突発的な休みなど多くの面で働きやすい環境である。賃金は、資格に応じて決定している。盆、正月、夕涼み会の特別手当の支給や、正規社員登用もある。子育て支援も行っている。た、年次有給休暇も取りやすい。最近では、派遣を利用している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集、採用については特に基準は設けておらず面接により決定している。職員は、委員会活動や、ユニットの個別の係りを適材適所で担当してもらっている。またマニュアルのほかに、仕事やし易い様に、細かいタイムスケジュールも用意している。	ハローワークやロコミで入職しているが、午前や午後だけの短時間の就労や子育て支援で就労しやすい環境を作っている。臨時や長期休校時で来所した児童と、笑顔で共用空間で過ごす入居者が多いと管理者は話している。職員の休憩室が設けられ、1時間の昼休みを取ったり、希望休も取得しやすい。今回時給を上げ、職員の定着に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業計画において基本方針として『基本的人権の尊重』を一番に挙げている。施設では特に人権教育はしていない。	設けられた'接遇委員会'で、身体拘束について話し合うことが多い。外部主催の虐待に関する研修に参加申し込みをしたが、今回は参加できなかったと管理者は話している。	接遇委員会の話し合いと人権研修を連動させたり、外部の人権研修資料などを参考に、人権研修を年間研修計画に位置づけ、開催されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は自主的に研修に参加しているが、管理者が必要と認める研修には出勤扱いで参加している。個人の資格取得にも協力的である。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に加入しているので、いろいろな研修の誘いがあり参加している。また、町のボランティア協議会主催のふれあい交流会にて町内のグループホームと交流している。最近では町のグループホームと協力し災害時における対応に関する協定書作りを行った。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話や、訪問により入所の申し込みを受け付けている。その際抱えている問題の相談があれば解決に向けてのアドバイスや、他の利用できるサービスの提供を行っている。入所に当たっては、入所者本人が納得しているか確かめている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることを解決できるように親身になって聞いている。必要な費用の明細や、必要な物品などわかりやすい資料を準備している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に入居を希望する方には、自ホームが満室であれば他のグループホームや、小規模多機能の施設を紹介している。又、訪問介護、通所介護、ショートステイの利用などを勧めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であるので、尊敬の念を持って接している。日々の生活でできことをしてもらい、出来ないことをお世話させてもらっている気持ちで接している。職員は1~3名の入居者を担当しておりより一層の密接した関係作りが出来ている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者を担当することにより家族とも密接した関係作りを行っている。1回/月のお便り、面会の際の最近の様子などを知らせている。暑中見舞い、年賀状なども出している。施設の行事や、外出は声掛けと一緒に過ごしてもらっている。特に入居者の誕生日には家族を招待して一緒に誕生日を祝っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節の便りのやり取りや、家族知人が訪問された時はソファーに案内しゆっくり話せる環境作りをしている。入居者がどこに行きたいか希望を聞き出来るだけ実現できるように努力している。	定期的に家族と外食に出かける入居者や、隣接するデイケアに、知人に会いに行く入居者もある。曾孫さんが来訪し、壁に貼る絵を画いたり、夕涼み会で日舞を舞う姿に涙して、元気を取り戻す入居者も居る。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくリビングで過ごしてもらうようにしている。共通のビデオの鑑賞や、BGMを流している。時々居室にお邪魔し談笑したり、体調の悪い入居者の部屋にお見舞いに行ったりしている光景を見かける。現在は2ユニット合同で昼食を取りながら交流している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体状態が悪化のため入院退所となった入居者に対しては引き続きお見舞いに行っている。現在はほとんどの家族が看取りを希望されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知が進行し意思の疎通ができない入居者は、家族の意向を聞いている。また、元気な時に口にしていた言葉を記録しなるべく希望していたことを可能にできるよう、職員全員で努力している。	職員を担当制にして、把握した情報をミーティング等で共有し、さらなる入居者の意向の把握に努めている。喫煙が楽しみの入居者もあり、玄関入口の喫煙所に職員が同席している。また、家族に毎月、入居者の状況を報告し、家族とともに入居者の意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最近では、センター方式を利用し、入居時に家族にシートを渡しわかることを記入してもらっている。以前は、回想アルバムを利用し、昔の思い出話を聞いた時は、記録し職員が共有していた。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重度化し寝たきりの入居者に対しては時間毎にスケジュールが決まっている。その他の入居者は特に決めてはないので、自由に過ごしてもらい、出来ることを手伝ってもらっている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は1回/毎月のミーティングの前にカンファに掛ける問題をリーダーに提起し、ケアカンファで入居者の介護の方向を検討している。家族からの要望や、身体状況に変化があればその都度見直しを行っている。	カンファレンスで担当職員から入居者の状況の報告を受け、介護作成担当者が把握した家族の意向に沿って、計画の作成や見直しをしている。介護度が重く意向の把握がしづらい入居者もあり、日々の関わりを大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランは入居者全員のものが直ぐ見れるように1冊にしている。又、入居者個々の介護記録、バイタルチェック表(食分量、V/S、入浴の有無、排泄状況)、業務日誌、連絡帳、などにて情報を共有している。また、連絡帳、会議議事録、回覧物は見落としがないようにサインにて確認している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節毎の行事、外出、散歩、医療機関への受診などの支援を必要に応じて行っている。外出したときは必ず写真を撮り、担当者が思い思いにスクラップして、家族の面会時に見せている。写真がいっぱいになったら家族にお渡ししている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町役場、消防署、地域包括センターの公的機関や、病院、学校、他の関係施設を必要な時に活用している。特に消防署は、1回/年避難訓練を行っている。今年は、5/16に、避難・消火・簡易救命訓練を行った。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が重度化しており、日々の身体の変化に対応できるように隣接している医院と医療連携をとり、異常の早期発見に向けて定期的な検査を行っている。毎週火曜日の歯科往診で、ブラッシング、治療、検診をお願いしている。看取りも家族の意向があれば行っている。	隣接する医療機関と密に連携し、管理者が処方された薬や検査結果を家族に随時報告するなど、入居者や家族が安心して医療を受けられるように支援している。また訪問歯科のケアが入り、インフルエンザの罹患も無くなっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行っている医院の看護師が訪問し自施設の准看護師を指導している。必要があれば隣接の医院や、専門医院の受診を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、身の回りのものを準備して持って行く。またお見舞いソートを作成し、スタッフはお見舞いに行った時は一言励ましの言葉を書いてくるようにしている。家族もそれを読みお礼の言葉などを記入してくれる。病院のソーシャルワーカー、主治医、看護師と早期退院に向けて連絡を取り合っている。入院中の洗濯物は持ち帰り洗濯するサービスも行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、看取りが出来ることを契約書に記載して説明している。理事が隣接の院長であるので、家族は医療面については安心して任せている。院長は毎朝訪れ入居者一人一人の状態を見ながら指示を出してくれる。入居者が重度化し必要があれば病状説明や、終末期について家族や担当ケアマネを交えて話しをしてくれる。家族が看取りを希望した場合は、密に連絡をとりながら介護を行っている。	毎朝来訪する隣接の医療機関院長の指示を受けながら、昨年2名の入居者を看取り、家族からは「ここで最期を迎えられ良かった」との謝辞があった。入居時に重度化や終末期の方針を説明し、意向確認書を取り交わしているが、保険者からの指導で、意向確認書に終末期間を明記する項目を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練の時に救命救急の訓練も行っている。又、急変時や事故が起きた時の対処の仕方、救急車への対応など、マニュアルを整備し、各ユニットに配置している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に依頼し、1回/年、避難訓練や、夜間の火災を想定した訓練など、行っている。また災害時の避難所も全職員が把握している。	先ごろ消防署の指導で実施した避難訓練は、雨天だったため、玄関先への避難となったが、運営推進会議で参加を呼びかけたため、4名の見学者があった。避難経路の確保や避難後の入居者の見守り等が課題となった。11月に夜間想定での避難訓練も予定しているが、停電の想定や円滑な職員連絡を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについてはマニュアルを作成し日頃より注意している。また、接遇委員会が中心になり言葉遣い、家族、外来者に対しての対応の仕方など注意している。排泄介助をするときは、扉を閉めなくては行けないが、外の状況がわからなくなるため、入り口にレースのカーテンをし、速やかに行っている。	入居者の心身の状況に応じた声かけや対応が実践され、アーンと絶えず声を出す入居者の声のトーンや発語に応じた、声かけや対応があった。腰の丈までのレースのカーテン越しにベッドで常時過ごす入居者の見守りをしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	塗り絵の好きなひとには毎日塗り絵をしてもらっている。歌や踊りの好きな人は、両ユニット合同でカラオケをしたり踊ったりしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化し、寝たきり状態になっている入居者は、時間ごとにすることが決まっている。自分の希望を伝える事のできる入居者には出来るだけ希望を聞いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重度化し、寝たきり状態になっている入居者に対しては、普段は寝巻きだが、本人の誕生日の日など家族の持ってこられた服を着てもらい写真撮影し壁に飾っている。自立している入居者は自分の気に入った服を着ている。また、2回/月の訪問理美容日に本人の希望で、カット・カラー・パーマを行なっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化し、寝たきり状態になっている入居者は、ゼリー食や、ミキサー食を提供している。昼食は時々合同で食事し、交流している。ピースの殻むき、つくしのはかま取り、シソの葉取り、など下ごしらえを手伝ってもらっている。	入居者同士の交流を兼ねて、調査時は2つのユニットの入居者が片方のユニットで昼食を摂り、他方のユニットで午後から誕生会が賑やかに行われていた。ファミリーレストランや回転すしではメニューを熱心に見て注文するなど、外食は小食で好き嫌いのある入居者にも好評で、時には夕食を外食にすることも検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ゼリー・ミキサー食の利用者は、1日1200カロリー摂取できるように考えている。栄養補助食材(液体・ゼリー)も併用している。また、水分も清涼飲料水(ポカリスエット)も含め、ジュース・紅茶・コーヒー・生姜湯・ゆず茶など好みのものを提供している。毎月1日には体重測定を行い急激な増減がないか注意している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯のある利用者は毎食後の入れ歯洗いとうがい、寝る前はポリドントを使用している。寝たきり者は個々の口腔の状態に応じて歯ブラシ、スポンジブラシを使用している。年1回の歯科検診・2ヶ月に1回の嚥下訓練講習を行い、口腔内に異常があれば毎週歯科往診にて治療が出来る。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者が重度化しており、全員が、オムツ、リハビリパンツ、尿取りパットを使用している。寝たきり者は、時間を決め日勤帯3回夜間帯3回交換している。トイレを使用している利用者も時間を決めてトイレに声掛け誘導している。	自分でトイレに行く入居者もあるが、トイレに誘導したり、定期的なおムツ交換も行われている。調査日の昼食時、2人体制でトイレでの排泄を支援している入居者もあった。排便の有無が食事摂取量や認知力に及ぼす影響を熟知し、緩下剤の使用を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材は繊維のあるものを使用し、ヨーグルトなどの乳製品をフルーツと共に摂取できるようにしている。個人的にヤクルトを購入しており毎日朝食時に摂取している。ガンコな便秘者には、緩下剤を使用している。排便の有無はチェック表に記録し管理している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	3回/週入浴している。入居者が重度化しており、設備が家庭用の浴入槽であるので、中に入れる入居者が少ない。寝たきりの入居者はシャワーチェアに座位が困難な為床に寝せて入浴している。失禁したときなどは随時シャワーにて対応している。	週3回の入浴を支援しているが、各ユニットが入浴日が異なる。浴槽に入れない入居者もあり、シャワー浴で対応している。入浴を嫌がる場合は、声かけや時間をずらして対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝たきり利用者以外は、なるべくリビングで過ごしてもらうようにし、日課以外は自由に過ごしてもらっている。居室のベッドはエアコンの風が直接当たらない場所、寝たきり者は体位交換がしやすい位置に設置している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がわかるように薬の処方箋(写真入)を個人別にファイルしている。入居者の身体の変化があった時は、主治医に指示をもらっている。また誤薬がないように薬箱を朝・昼・夕と分け、食事時に個々名前の書いた箱に入れ、飲ませる時は声掛け2名で確認して口腔内投与している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	汚物を包む新聞紙をたたみ、洗濯物をたたみ、お絞りを巻き、茶わん拭き、食材の下ごしらえなど、出来ることを手伝ってもらっている。手伝ってもらった後は必ずねぎらいの言葉を掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寝たきりの入居者の外出は難しくなってきた。そのほかの入居者の外出は、ドライブや、少人数での外出、外食になっている。毎月1回は隣接した医院のデイケアの誕生日会・お楽しみ会に参加。また、誕生日に家族と一緒に外食したりしている。	ユニット毎の初詣、藤や桜の花見、外食などの外出を支援している。他市の秋の文化祭で日舞を舞うひ孫を見に行きたいと希望する車いす対応の入居者の外出の支援を予定したり、近隣の民生委員宅の庭の花見に同行している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持たせていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のできる入居者には、子機を手元まで持って行き話してもらうようにしている。母の日や、七夕、敬老の日などに職員が家族に対して、手紙(カード)を書いてもらい見せるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に職員が毎月季節感のある飾りを工夫している。天窓から直射日光が当たらないように日よけのシールを貼っている。入居者はなるべく動きやすいように薄着にし、室内温度はエアコンで調節している。	ホーム入口のプランターには季節の野菜が植えられ、共用空間の壁には庭で実ったびわを用いて理念の愛あふれるホームの暮らしを掲示したり、家族に配布しているホームの新聞も掲示し、入居者は楽しみにしている。室温管理や換気等に気を配り、食後にはそれぞれの居場所でゆっくり過ごせるようテレビを中心にソファや椅子が配置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビングのいつも決まっている場所で一緒にテレビ、ビデオを観て過ごしている。入居者の状態を見て時々家具や、ベッドの移動、部屋換えも行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に新たに買い揃えるのではなく、日頃から使用していたタンスや使い慣れた食器を持ってきてもらっている。部屋の壁には家族の写真や、贈り物を飾り、ギャラリーのようにしている。	清潔に清掃された居室には、自宅から持ち込まれた家具が配置され、ドアを開けてもプライバシーが守られるように、入口にレースのカーテンがかけられている。表札も手作りで、居室の壁面には家族の写真も貼られているが、創作が得意な職員の飾り付けは、入居者から喜ばれるだけでなく、職員のやりがいにも繋がっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングの壁、浴室全面に転倒防止のための手すりを取り付けている。トイレのドアには大きくトイレの表示をしている。居室の入り口には、表札、緊急時の搬送手段などがわかるように札が掛けている。		